

はじめに

令和5年度は、コロナが2類から5類へと変更され世の中では人々の意識も少しずつ変化が現れ、外出や旅行、各種行事が復活の兆しが現れました。施設内でも対策を続けながら外出や施設内行事も徐々に実施しています。しかし、集団生活を余儀なくされる特徴は変わらず、感染した場合個人差が大きい為、常に最悪も想定しながらの対応となりました。今年度も施設内で2度の感染が確認され対応に追われましたが、定期的に実施している対策の効果が表れ一部の感染者のみで終息することが出来ました。今後も続く感染症対策に対しての意識や想定訓練が定着しました。

利用者の皆様の状況では、女性利用者2名が高齢による体調変化や機能低下により、介護施設への移動となりました。また、男性1名が病気の為亡くなりました。今後も男性・女性共に高齢の利用者の方が障害者施設での限界を超えることも考えられ、ご本人の状況により施設の移動を余儀なくされるケースも増加する可能性が高くなります。

人口減少による人材不足は社会的に厳しい状況が予想されますが、職員の離職は一定数出てしまっていますが、予定数は確保出来利用者支援には支障をきたすことが無い様対応することが出来ました。

また、本年度は東京都第三者評価事業の本調査の年でありましたが、課題は一定数ありますが、事業内容、経営状況等おおむね良好の評価をいただくことが出来、今後も歩みを止めることなく利用者・ご家族の皆様に寄添う支援を継続してまいります。役員各位、また、関係者の皆様に多くのご協力をいただき有意義な年度となりましたこと、心から感謝申し上げます。

以下令和5年度の事業報告といたします。

1. 主な事業の経過

月	日	内 容	説 明	場 所 等
4	14	初任者研修	新任職員研修	ZOOM
	18	富岡市市議会選挙	利用者 選挙投票	富岡市
	20	保護者会役員会	事業計画案等	四ツ谷
	24	摂食嚥下研究会	委員会	施設内
	25	定期健康診断	嘱託医による定期健康診断	施設内
5	10	胸部レントゲン検診	松井田病院検診車	施設内
	11	榛名・伊香保旅行	利用者7名・職員5名	県内
	13	法人監事の監査	令和4年度事業内容全般の監査	施設内
	25	法人理事会	令和4年度事業報告・決算 他	施設内
	30	四万温泉旅行	利用者5名・職員4名	県内
6	6	福祉協会総会	群馬県知的障害者福祉協会総会	前橋市
		草津旅行	利用者6名・5名職員	県内
	16	法人理事会・評議員会	法人理事、監事・評議員	施設内
		保護者会役員会	保護者会総会・役員会	四ツ谷
	22	コロナウィルス予防接種	小幡医院来園	施設内
30	果物狩り旅行	利用者1名・職員1名	県内	

月	日	内 容	説 明	場所等
7	14	長野旅行	利用者 2 名・職員 2 名	長野県内
	19	長野旅行 2	利用者 3 名・職員 2 名	長野県内
	20	内部研修（記録を考える）	施設内 支援員 20 名	施設内
	21	バーベキュー大会	利用者 50 名・職員 20 名	施設内
	28	摂食嚥下研修	職員 7 名	施設内
8	4	夏季特別研修会（担当施設）	福祉協会参加者 250 名（zoom）	群馬県内
	17	内部研修（感染予防）	支援員 21 名	施設内
		スーパーバイズ研修	職員 1 名	前橋市
9	9	保護者会役員会	保護者会役員・施設長	四ツ谷
	12	福祉パレード	富岡市利用者 6 名・職員 5 名	市庁舎
	22	第三者評価	利用者 29 名・評価者 5 名	施設内
	26	グルメ旅行	利用者 1 名・職員 1 名	県内
10	10	グルメ旅行 1	利用者 2 名・職員 2 名	高崎市
	11	グルメ旅行 2	利用者 3 名・職員 3 名	高崎市
	13	グルメ旅行 3	利用者 2 名・職員 2 名	高崎市
	16	グルメ旅行 4	利用者 2 名・職員 2 名	高崎市
	18	グルメ旅行 4	利用者 3 名・職員 3 名	高崎市
	19	内部研修（介護研修・危険予知）	支援員 25 名	施設内
	27	インフルエンザ予防接種 福祉パレード反省会	利用者 50 名・職員 25 名 施設長	施設内 富岡市
11	6・9・10	富岡旅行	利用者 5 名・職員 5 名	富岡市
	11	保護者会懇親会・役員会	保護者 12 名・職員 5 名	四ツ谷
	15	第三者評価（全体評価）	評価委員 4 名	施設内
	16～17	全国施設職員研修会	職員 2 名	山梨県
12	12	サービス管理責任者研修	職員 1 名（zoom）	施設内
	19～20	中堅職員研修	支援員 1 名（zoom）	施設内
	25	クリスマス会	利用者 48 名・職員 22 名	施設内
1	5	新年会	利用者 48 名・職員 23 名	施設内
	11・18・25	行動援護研修	職員 2 名	施設内
	12	伊勢崎旅行	利用者 4 名・職員 4 名	伊勢崎市
	15	富岡旅行	利用者 3 名・職員 3 名	富岡市
	19	旅行説明会	利用者 50 名・職員 18 名	施設内
	24	喀痰吸引研修	職員 2 名	前橋市
2	8・19・26	行動援護者研修	職員 2 名	施設内
	13～16	ぐんま DWAT 災害派遣	職員 1 名	金沢市
	29	成人生活部会	職員 2 名	前橋市
3	14	理事会	定時理事会 理事・監事・職員	施設内
	25・26	血液検査	利用者 50 名	施設内
	31	環境整備	職員 7 名	施設内

2. 運営費収支の状況

(1) 社会福祉法人 愛友会決算状況

歳入について報酬改定は無かったが、利用者の高齢化等による介護施設への入所や死亡等による退所で人員減となり前年度と比較して若干の減少となった。

歳出は年度内の職員増により人件費支出が増額となった。事業費はコロナ感染対策物品や施設内活動増加に伴う支出も伸びているが、施設外活動がまだ少ない為全体的には減額となっている。このような状況から今年度の資金収支差額はほぼ前年度と同様となり、今後の施設整備の為に建設積立金に繰り入れた。

1. 健康管理

利用者の高齢化や重度化に伴い、全般の健康状況としては下記の通りとなっています。

(1) 健康状況

領域	症状など	人数
循環器系等	① 血流の循環不全や血栓に留意が必要な人。	18名
	② 嚥下機能が低下している人（誤嚥、肺炎、窒息等）	30名
消化器系等	① 食欲が低下し、低栄養が心配されている人。	16名
	② 慢性的な便秘で、下剤の服用や浣腸等の処置が必要な人	36名
	③ 尿路感染症等に留意が必要な人。	9名
下肢筋力の低下	車椅子の介助と歩行に付き添いが必要な人。	15名
情緒面の見守り	精神薬を服用している人。	37名

(2) 利用者の入院

延べ6名（男性4名、女性2名）が入院し、入院日数は527日間でした。入院中は面会が制限されている中で、病院との連携を継続しました。

(3) 利用者の死亡

亡くなった方	年月日	病名
63歳男性	令和6年1月2日	多発性肝腫瘍

(4) 利用者の事故

職員からの気づきの提案と日常的な事故を考える委員会を主体とした安全対策を継続していましたが、4件の骨折、1件の縫合、1件の所在不明、1件の誤食、4件の誤薬事故がありました。（計11件）

利用者	発生日	経緯
61歳女性	令和5年7月17日	右手の腫れ及び内出血を確認。受診により右手第四指基節骨骨折の診断。原因は不明。
65歳女性	令和5年8月17日	転倒により左大腿骨頸部骨折。手術施行。
64歳女性	令和5年9月2日	右肘の腫れあり受診。左肘剥離骨折の診断。原因は不明。
37歳男性	令和5年9月11日	所在不明。無断で民家に入った。

27歳男性	令和5年11月19日	てんかん発作にて転倒。後頭部二針の縫合。
65歳女性	令和6年1月21日	転倒により鼻骨骨折、右上顎骨多発骨折、右眼窩骨折。
24歳男性	令和6年1月22日	スクイーズを誤食。
4件の誤薬事故。		

(5) 感染症予防対策

利用者	
日常の予防	毎日の体調管理、マスクの着用、手洗いや手指消毒の励行、外出の調整、建物内の定期的な清掃、点検、消毒、換気等を継続しました。
ワクチン接種	② 11月に村田医院の往診によりインフルエンザ予防接種を行ないました。 ②小幡医院の往診により新型コロナウイルス予防接種、6回目・7回目の接種を行いました。
衛生品等の補充	マスク、消毒液、その他の備品管理及び、人が集まる場所には空気清浄機を設置し、衛生環境の保持を継続しました。

2. 利用者支援

(1) 個別支援計画の実践

サービス管理責任者が個別支援会議を招集し、(本人、ケース担当、看護師、栄養士、行政機関、主治医等) 本人と保護者の意向を踏まえた案を作成し、支援員会議で検討し、本人の同意(計画内容の理解の促進)を経て支援を実践しました。

保護者の意見や考えを聞き取る場を設けることが困難な保護者には、個別支援計画書(案)を郵送し、意見の集約と同意を得ながら進めました。以後は中間の期間で評価(モニタリング)し、再度、個別支援計画書の作成と実践を継続しています。

(2) 摂食・嚥下の取り組み

NPO法人代表の山川医師を招いた委員会活動は下記の通りに実践をしました。

項目	実践内容	
毎月の研究会	診断を踏まえ、評価を行ない食事形態と本人の嗜好との調整を継続しました。診断と本人の意向に添った食事の形態は以下の通りとなりました。	
	食事の形態	人数
	常食で支障がない人	22名
	診断の理解が得られず常食を提供している人	1名
	軟飯、ペースト、刻み食等の提供が必要な人	24名
食事の提供	安全面は個々の形態に合った食事を提供し、窒息や誤嚥予防を継続しました。必要な方は個別に支援を行いました。	
咀嚼訓練	特に窒息等の危険性が高い人と若年層(20歳~30歳代)を対象にして、個別でトレーニングを継続しました。	
低栄養の改善	毎月の体重測定を通じて、主治医、看護師、栄養士と連携して通常の食事に加え、栄養補助食品を提供し、健康管理に努めました	

(3) 日中活動

班	活動の状況	販売額
3グループ (内4名)	織物(ラグマット等)や手芸(アクリルたわし、ビーズコースター等)の販売は妙義、下仁田道の駅の委託販売の継続した結果、前年度並みに収益を上げることができました。	約12万円
農耕班	所属する利用者が減っていく状況と、次世代の担い手不足が続いていますが、顧客に満足いただける様に質の向上を継続しました。安全対策は防御柵の設置を継続し、注意喚起をした結果、事故はなく活動を行うことができました。	約164万円
1グループ 3グループ	障害特性(自閉的傾向、統合失調症等)や健康維持(筋力低下や便秘予防)の支援をグループ編成で実践しました。 ①運動が必要な利用者は林道やグラウンドのウォーキング(1~3km弱)を実践し、雨天時は室内の中でDVDを使い体操を行ないました。 ②それぞれの個性や特性に応じ自立課題等に取り組みました。 ③利用者の希望に添い活動にドライブを取り入れ実践し、情緒の安定を図りました。	
2グループ 4グループ	①高齢者や看護が必要な利用者は看護師、栄養士と連携を図りながら個別の状態に合った支援計画を作成し、日々の支援に取り組みました。 ②筋力維持に向けた活動(リハビリ的)を継続しました。 ③創作活動が得意な利用者には絵画や折紙で、作品を制作しました。 ④入院支援は、本人の面会と入院先の病院との連絡調整を行ない、退院後は日常生活に戻るまでの看護やリハビリを行ないました。	
クラブ活動	外部から指導者を招く活動は休止し、ダンスと音楽クラブを継続しました。練習成果は秋祭等で発表し、あすなる祭にはビデオで撮影し、成果を発表しました。	

(4) 記録方法の改善と活用

日常の気づきの記録に加え、個別支援計画の取り組みにおける記録をより客観性をもたせる取り組みを研究し実践した結果、支援計画の中間評価する上で活用に役立ち、個別記録は保護者が閲覧を希望した際に対応ができる様に保存しています。

(5) 社会参加と社会資源の活用

コロナ禍に合った生活の楽しみとして、令和4年度までは施設内でテイクアウトの機会を設けることで対応していましたが、令和5年度については、地域の感染者状況を踏まえ、小部屋を使用した外食を行う等、工夫を行い実施しました。また、富岡、安中市内の公園等を利用し気分転換を図りました。旅行は、日帰り旅行を設定し、群馬県内の観光地(四万、草津、伊香保、桐生等)に出かけ楽しんで頂きました。

(6) 自治会(わかば会)活動の活性化

運営委員（利用者）8名、顧問2名（支援員）の構成で、主な事業内容は意思決定支援（旅行候補地の説明会の開催）及び旅行、行事計画の大枠の編成を行ないました。

(7) 奉仕活動

利用者自治会（わかば会）の役員、顧問による「町内幹線道路の空き缶、ごみ収拾」は予定していましたが天候不順や気候、新型コロナウイルス感染状況により中止しました。

(8) 地域社会との交流

妙義小学校、高田小学校との交流学习や妙義白雲寮との合同納涼祭は、新型コロナウイルス感染予防のため、止む無く中止し、その他の交流の機会も中止させていただきました。

3. 研修

項目	内容
専門研修	リモート研修（強度行動障害者支援者養成研修等）に参加しました。
職場内研修	施設内の研究委員会や班活動の実績報告を通じて、成果と課題を共有しました。
資格取得	サービス管理責任者、社会福祉主事、介護実務者等の取得を目指した職員の支援（研修費補助や勤務調整等）を行ないました。

4. 委員会活動

委員会名	内容	
倫理	職員行動規範	不適切な対応を無くすため、直接処遇職員中心に、周知徹底を図りました。
	ハラスメント対応	相談窓口を設置しています。また、アンケートを実施しました。相談はありませんでした。体調の異変や基礎疾患を抱える職員には、個別に聞き取りを行いました。
虐待防止	委員会による定期的な会議	委員会の設置が義務化となり、定期的な会議を行ない、評価を行うとともに、情報の共有を行ないました。
	虐待防止マニュアルの周知徹底	定期的に群馬県虐待防止マニュアルに基づいた手順や防止策を盛り込んだマニュアルの周知徹底を図りました。
	職場内研修	職員が研修で学んだ内容をフィードバックする目的で、研修を行ないました。
事故を考える	日常の取り組み	日常の気づきは定期的に生活支援員が主体で研究した結果、早期対応につなげられました。また、事故の発生時は原因を分析して再発防止策に取

		り組みました。
	非常食提供訓練	近年の災害に備え、ライフラインが停止したことを想定し、ガスボンベや五徳を使用し、アルファ米の提供訓練を行ないました。
	風水害訓練	①利用者は避難訓練を行ないました。 ②職員については風水害を想定した非常呼集訓練を行いました。
	防犯訓練	新任職員に富岡警察署から指導された対処方法を中心に研修を行ない、さすまたを使った実技訓練を行ないました。
業務継続計画	令和6年度の計画作成の義務化に伴い「妙義もみじ学園 業務継続計画」を整えました。	
食事提供	摂食嚥下研究会や生活支援員と調理員が連携して、食形態の変化に基づいた効率的な配膳方法や個々の機能に合った食器の提供に努めました。	
居室環境	①利用者の個性や人間関係における居室調整は随時行ないました。 ②家電、家具類の点検や消耗品の入れ替えを行ないました。 ③毎月、環境整備の日を設定し衛生管理を行ないました。	
感染症予防	①定期的に発信されている感染情報の更新を行い、注意、啓発の呼びかけを行ないました。 ②新型コロナウイルス対策は厚生労働省のガイドラインに基づいた日常からの対策（職員・利用者の健康チェック、消毒、手洗い等）を継続しています。また、定期的に会議を開催し、感染状況に応じた支援を検討し実践しました。 ④新型コロナウイルス等の感染症が施設内に入ってしまった場合には、委員会が中心となり、マニュアルに則り対応を行ないました。	

5. 職場内研修

日	曜日	研修テーマ	参加者	
			職員	外部講師
6/15	木	虐待防止・身体拘束適正化	18	0
7/20	木	記録を考える	20	0
8/17	木	感染予防研修(ゾーンニング・コロナ振り返り)	20	0
10/19	木	介護研修(介護技術・危険予知訓練)	25	0
11/16	木	強度行動障害	19	0
11/20	木	摂食嚥下勉強会	19	1
12/21	木	倫理委員会研修	23	0
1/18	木	委員会活動報告会	21	0
2/16	木	支援課事業報告会	24	

令和5年度 苦情解決委員会報告（令和5年4月～令和6年3月）

1. 相談を受けた利用者

申し出の方法	利用者	今年度の受付結果	件数
本人から申し出た人	44	未解決	116
職員から声を掛けて話を聞いた人	0	解決	26
		評価点とその他	22
		全受付件数	164

2. 苦情・要望の内容と結果

(1) 未解決

No	内 容		件数	理 由
1	利用者関係	他利用者の発言	11	周囲から注意を受けても続い てしまう
2		他利用者の行動	74	
3		利用者間の人間関係	25	相性の問題による
4	生活関係	外出・帰省	6	実施困難による
5	合 計		116	

(2) 解決

No	内 容		件数	理 由
1	利用者関係	他利用者の行動	19	委員会による聞き取りと 支援員による取り組みによる。
2	生活関係	施設の環境	1	
3		日中活動	6	
4	合 計		26	

(3) 評価点とその他

No	内 容		件数	結 果
1	利用者関係	他利用者の良い点	1	支援員の取り組みによる
2		帰省に関する良い点	0	
3	生活関係	施設環境の良い点	2	
4		日中活動の良い点	7	
	その他	話を聞いてほしい	12	
			22	